



福島★復興グランプリ

開催報告レポート

2022年12月 経済産業省 福島復興推進グループ

Odaka
Worker's
Base

BG BUSINESS
GATEWAY

田舎で楽しめ！



はじめに

福島第一原発の周辺地域では、今年まで居住人口がゼロだった町もあり、今もなお多くの社会課題を抱えています。

一方でこうした地域を、社会課題先進地域やフロンティアと捉え、ゼロからのまちづくりにチャレンジする起業家も増えてきました。

経済産業省では、こうした動きを加速させるべく、地方での事業立ち上げに関心のある方々と被災地を巡り、新たな事業の種を生み出す「福島★復興グランプリ」を開催しました。

(イベントWebページ: <https://www.fukko-grandprix.com/>)

目次

1. 本取組みの背景
2. プログラム概要
3. 当日の様子(フィールドワーク)
4. 当日の様子(アイデアソン)
5. 参加者の声



1. 本取組みの背景

2. プログラム概要

3. 当日の様子(フィールドワーク)

4. 当日の様子(アイデアソン)

5. 参加者の声

フィールドは福島県「被災12市町村」

被災12市町村とは？

- ✓ 原発事故の影響で避難を余儀なくされた12の市町村
- ✓ 人口がゼロになった町もある被災中心エリア
- ✓ 現在も住めない地域あり
(東京23区の約半分の面積)
- ✓ 福島第一原発周辺の町は、
2022年頃からまちづくり開始

(福島県地図)



被災12市町村の特徴

新たな事業を創出する起業家にとって、12市町村はチャレンジしやすい特徴を有している。

社会課題の先進地域



- 急速な人口減少(居住人口が10分の1になった地域もある)
- 一部地域は高齢化率50%超
- 空き家・空き地が数多く存在
- 生活環境インフラが未整備
- 産業や地域経済が発展途上
- ...など、様々な課題に直面

事業を生みやすい環境



- 日本のフロンティアと言われるチャレンジングな環境
- 地域課題解決・新産業創出に向けた補助金・支援策が充実
- 廃炉・ロボット・エネルギー・農林水産・医療・航空宇宙分野のプロジェクト創出を国が支援
- 実証実験のフィールドが充実

多くの起業家が活躍



- ゼロからのまちづくりに挑む社会起業家が活躍
- テクノロジーで社会課題解決に挑むスタートアップも多数
- 大企業や地元企業と連携した実証実験プロジェクトも活発

開催背景

被災12市町村の状況

様々な課題を解決する
事業創出が求められる



地域課題解決の担い手
(企業、起業家)が必要



首都圏起業家などの声

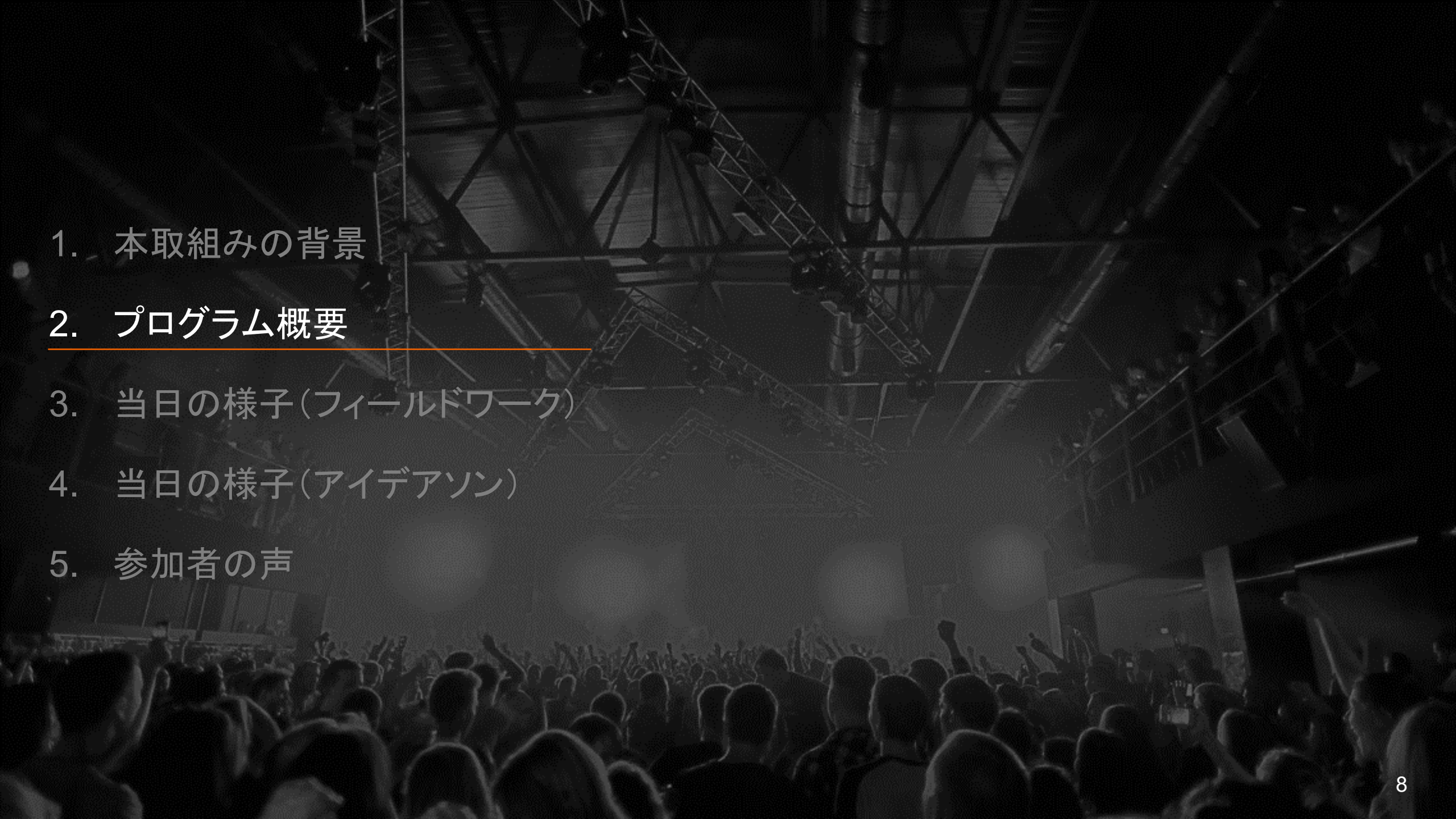


今の被災地を知りたい、
何か力になりたい



魅力的な福島社会起
業家と繋がりを持ちたい

様々な社会課題を現地で体感し、地元起業家達との対話を通じて
新たな事業や担い手を生み出す「福島★復興グランプリ」を開催



1. 本取組みの背景

2. プログラム概要

3. 当日の様子(フィールドワーク)

4. 当日の様子(アイデアソン)

5. 参加者の声

プログラムの流れ

被災12市町村を3エリアに分けて巡り、3日目に全エリアが合流して事業アイデアを競う。

Day1

Day2

Day3

② フィールドワーク

③ アイデアソン

① 3エリアに分かれる

NORTH
エリア
(16名)



飯舘村



南相馬市



浪江町



富岡町で合流

SOUTH
エリア
(24名)



双葉町



大熊町



富岡町

WEST
エリア
(15名)



田村市



葛尾村



田村市



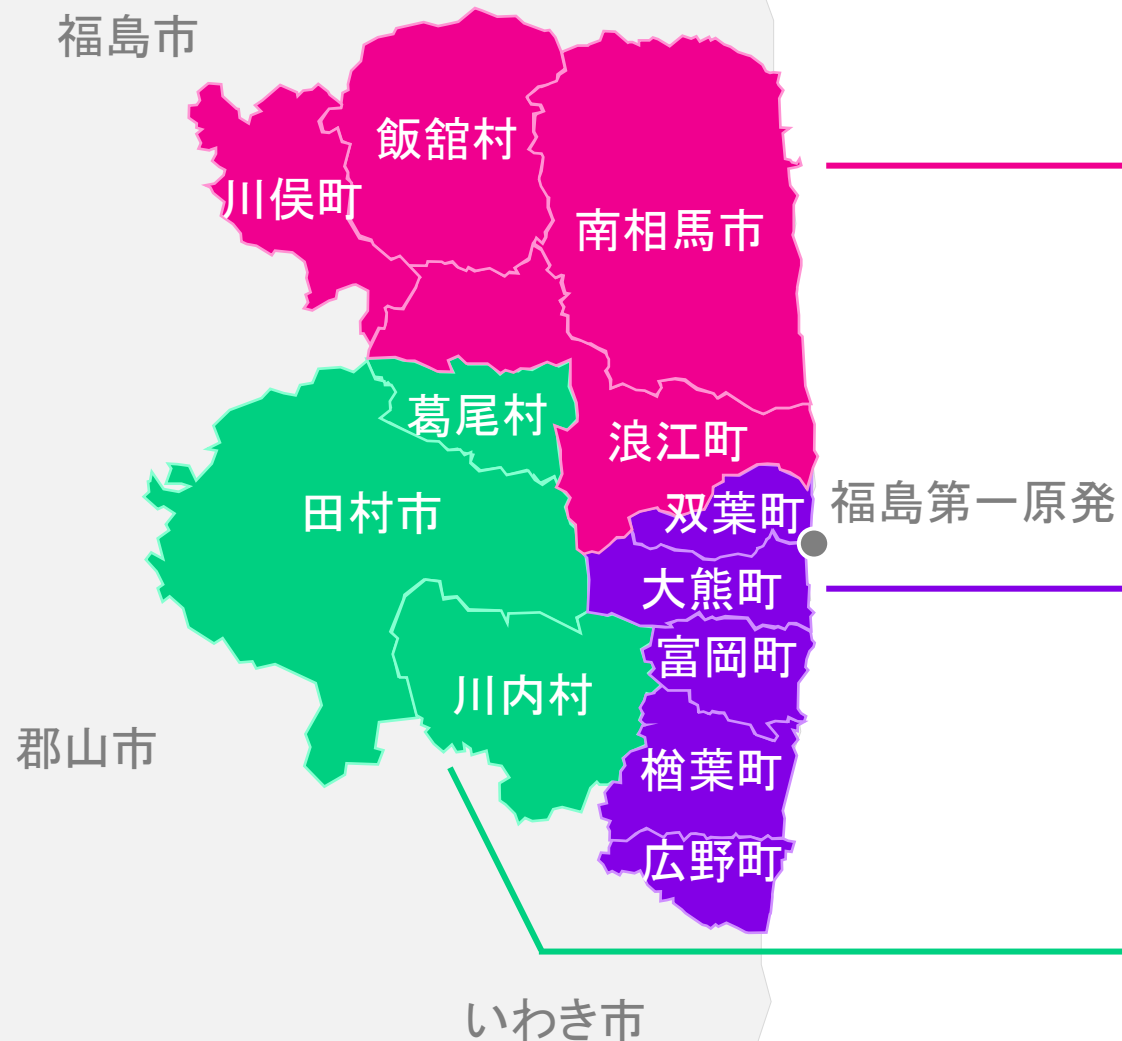
川内村



桧葉町・広野町の会場
(Jヴィレッジ)で合流

- ・ フィールドワークを踏まえ、事業アイデアを創出
- ・ 事前に、イノベーターの思考回路をインストール
- ・ チーム対抗型でアイデアを競い合う

3エリアの概要



NORTHエリア (参加者16名)

- 馬事文化の根付く相馬エリアが中心
- 「食・サービス」をテーマにアイデアを創出

SOUTHエリア (参加者24名)

- 原発の立地する双葉エリアが中心
- 「テクノロジー」をテーマにアイデアを創出

WESTエリア (15名)

- 自然が豊かな阿武隈山地が中心
- 「観光・自然」をテーマにアイデアを創出

NORTHのフィールド



いいたて村の道の駅までい館

飯舘村の復興と再生を担う拠点としてオープン。「までい館」の“までい”は、「丁寧に、真心こめて」を表す方言。



図図倉庫(ズットソーコ)

飯舘村のホームセンター跡地をリノベーション。環境再生や地域づくりをサイエンス/アート/クリーンテクノロジーなど様々な分野の視点から考える自由研究秘密基地。



小高パイオニアヴィレッジ

南相馬市小高区にあるゲストハウス併設のコワーキングスペース。震災被害により一度は人口がゼロになった街で、新たな地域づくりに挑む人々が活動中。



haccoba -Craft Sake Brewery-

2021年2月に誕生した酒蔵。「酒づくりをもっと自由に」という思いのもと、ジャンルの垣根を超えた自由な酒づくりを行う。日本酒にクラフトビールの製法をかけ合わせたお酒を展開。



なみえ星降る農園

生産者、住民、東北の食のファンが一緒になって、様々な農作物を実験的に栽培していくコミュニティ実験農場。この地域や日本で栽培されてこなかった農作物を実験的に栽培する。



道の駅なみえ

浪江町の復興のシンボルとして2020年3月20日にオープン。買い物もできて、食事もできて、休憩もできる、新たなチャレンジを支える場。

SOUTHのフィールド



被災12市町村のうち8町村が所属する「双葉郡」。そんな双葉郡の民間団体である双葉郡未来会議が開設した、双葉郡の総合インフォメーションセンター。双葉郡8町村の現状を概観できる。



双葉町を壁画アートを使って盛り上げる試み。地元出身の飲食店経営者とウォールアートを専門で行う会社を中心となり、地元関係者を巻き込みながら町内に8点アート作品を残している。



大熊町の小学校が起業支援拠点として生まれ変わった施設。大熊町の地域課題解決に取り組むスタートアップや学生、クリエイター等が入居する。



日本で最も海と駅から近いワイナリーを核とした100年先の地域づくりプロジェクト。町民有志で始めた活動が現在は100名を超えるボランティアを集める場に。テクノロジー活用にも積極的。



原子力事故の記録や教訓、廃炉現場の最新状況等を発信するために東京電力が運営する資料館。豊富な展示等から原子力事故当時の状況、事故の教訓や廃炉進捗状況等を学べる。



富岡町および周辺地域の成り立ちや震災前後の変化を伝える豊富な地域資料を展示。地域独自の歴史や文化は突き抜けたアイデアのヒントになること間違いなし。

WESTのフィールド

テラス石森



田村市における新たなビジネス・情報発信・働き方改革の拠点として、2018年に福島県初の複合型テレワークセンターとしてオープン。廃校となった旧石森小学校を活用。

葛力創造舎(かつりよくそうぞうしゃ)



葛力創造舎は、通常なら持続不可能と思われるような数百人単位の過疎の集落でも、人々が幸せに暮らしていける経済の仕組みを考え、そのための事業を実施していく団体。

グリーンパーク都路(みやこじ)



ビールの原料となるホップや大麦の栽培からビール醸造まで行う「ホップガーデンブルワリー」を併設したアウトドアスポット。ホップ畑を見ながらオリジナルビール片手にキャンプができる。

田村森林組合



福島県は首都圏の木材需要の最大13%を供給してきた地域。特に田村市は市内の60%が森林に覆われる林業のまち。そんな林業のまちで木こり達を束ねているのが田村森林組合だ。

かわうちワイン



阿武隈の山々に囲まれた標高750メートルの高台に位置するワイナリー。ワイン事業を通じて地域の新たな食文化の探求と魅力創造を目的に様々なイベントや農業体験・学びの場を提供。

いわなの郷



福島県川内村、いわなの養殖&釣り堀施設の「いわなの郷」敷地内にある、いわなの塩焼きや各種いわな料理を楽しめるお食事処兼バーベキュー場。

本プログラムの実施体制

運営体制

主催



経済産業省

福島復興推進グループ

運営



PwCあらた有限責任監査法人

アイデアソン 監修



一般社団法人INSPIRE

協力



公益社団法人
福島相双復興推進機構
(福島相双復興官民合同チーム)

福島相双復興推進機構



一般社団法人HAMADOORI13



特定非営利活動法人ETIC.

監修メンバー



フィールドワーク監修/事務局
TETLA(同)
野田 翔一郎



アイデアソン監修
(社)INSPIRE
谷中 修吾

メンターメンバー



North Mentor
(株)小高ワークスベース
和田 智行



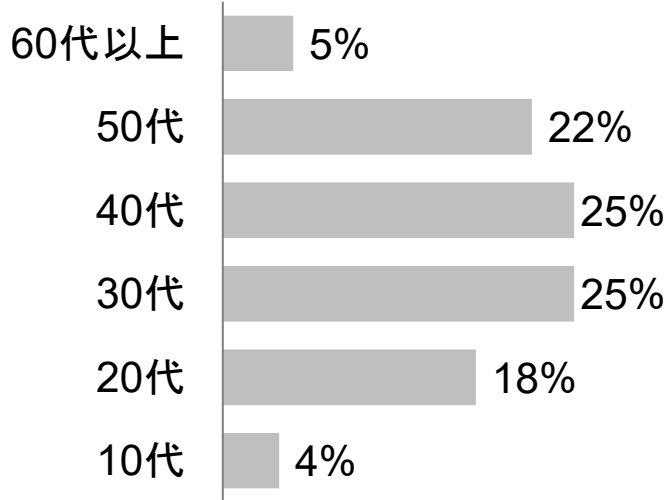
South Mentor
ビジネスゲートウェイ(株)
黒田 敦史



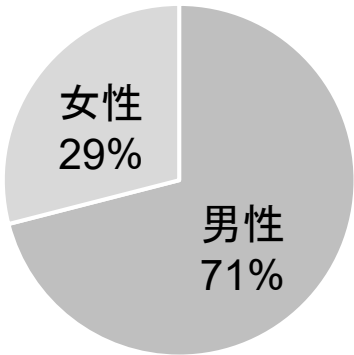
West Mentor
(社)Switch
久保田 健一

参加者(55名)の内訳

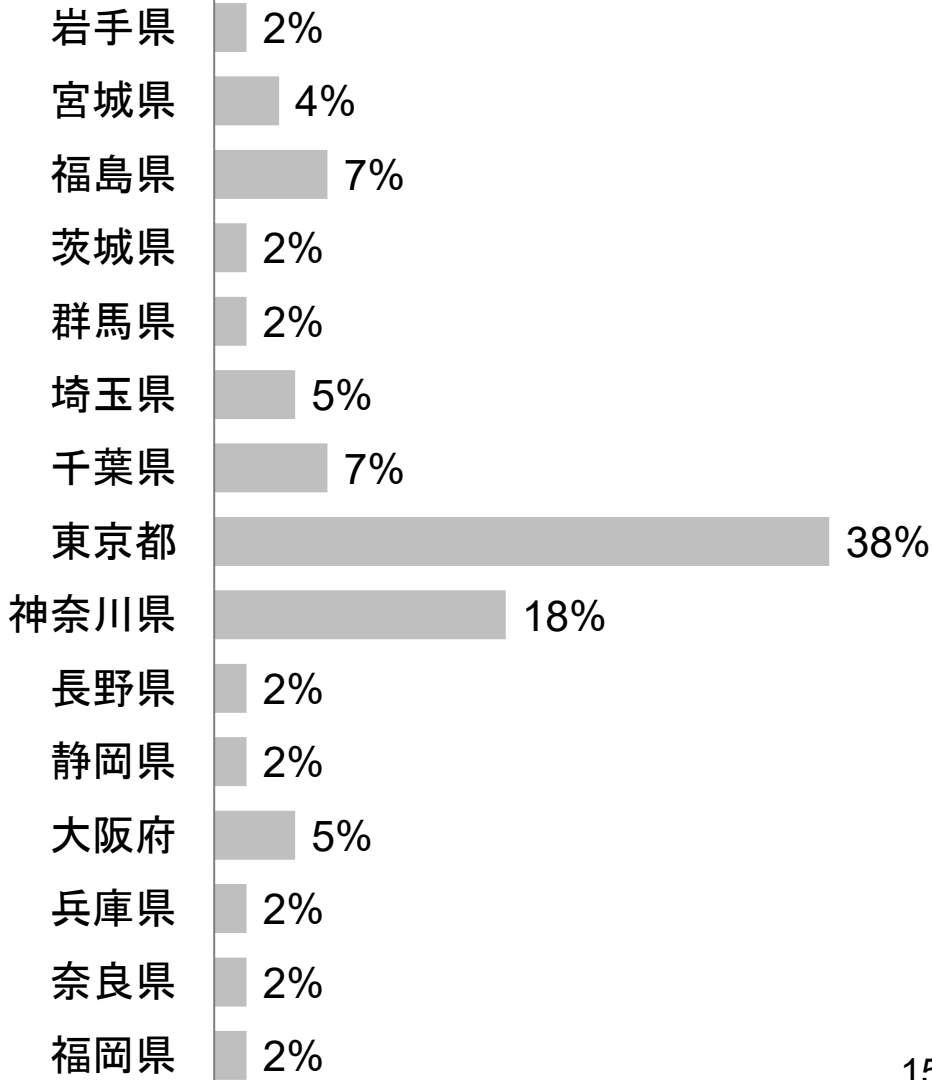
年代



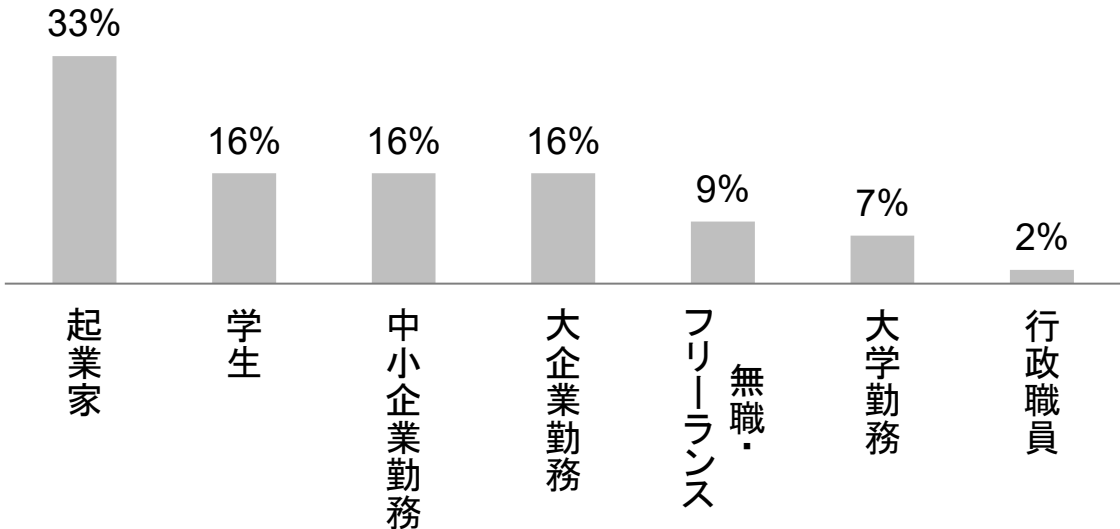
性別



居住地

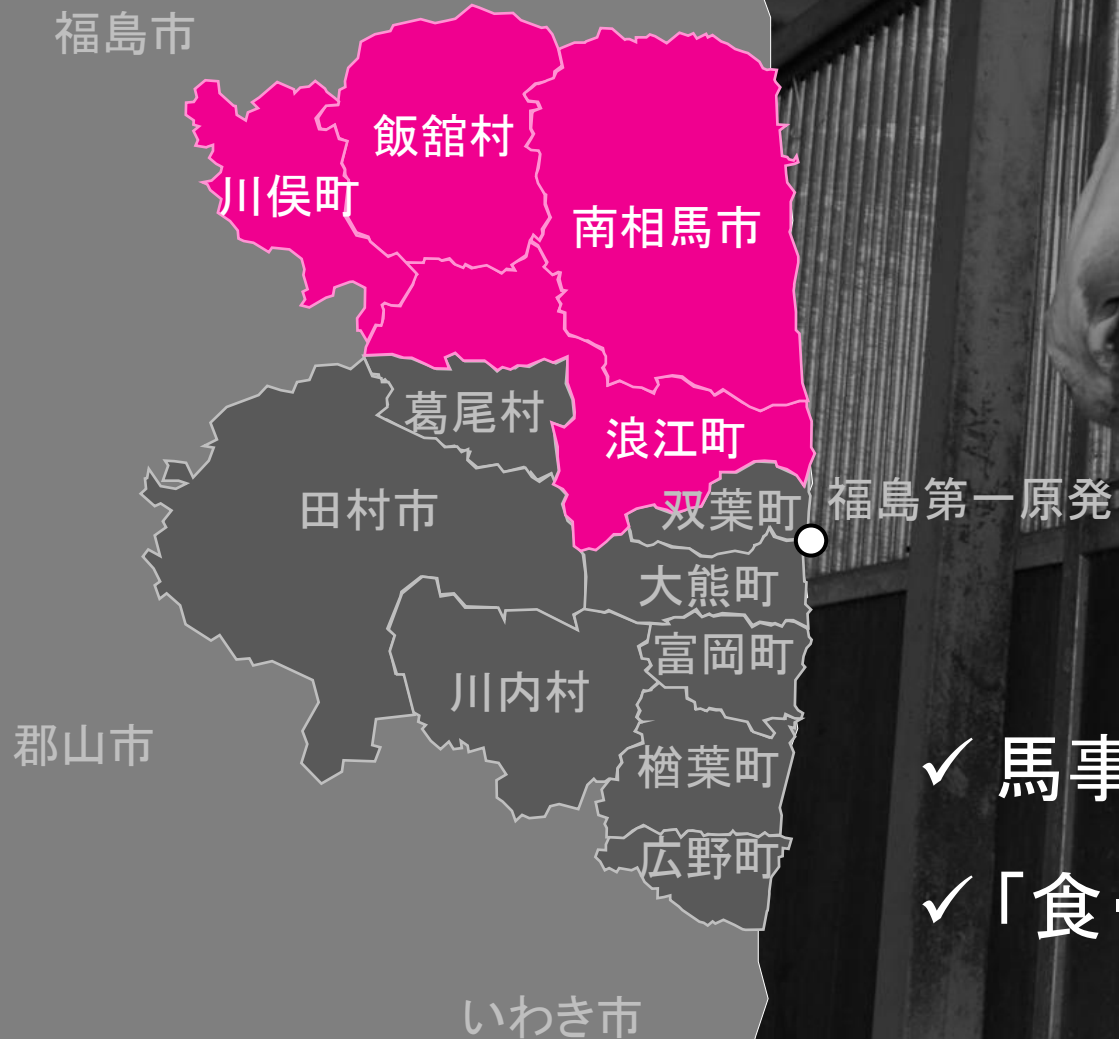


職業



- 
1. 本取組みの背景
 2. プログラム概要
 3. 当日の様子(フィールドワーク)
 4. 当日の様子(アイデアソン)
 5. 参加者の声

NORTHエリア



- ✓ 馬事文化の根付く相馬エリアが中心
- ✓ 「食・サービス」をテーマにアイデアを創出

NORTHエリア Day1



NORTHエリア Day2



SOUTHエリア

福島市

飯舘村

川俣町

南相馬市

葛尾村

浪江町

田村市

双葉町

福島第一原発

大熊町

富岡町

川内村

楡葉町

広野町

郡山市

いわき市

- ✓ 原発の立地する双葉エリアが中心
- ✓ 「テクノロジー」をテーマにアイデアを創出

SOUTHエリア Day1



富岡町のふたばいんふおでキックオフ



双葉町のアートを見学



大熊インキュベーションセンター(OIC)の見学



OICの黒田敦史さんの自己紹介



OICの起業家3名から企業紹介



OICの起業家達とのディスカッション

SOUTHエリア Day2



WESTエリア



福島第一原発

- ✓ 自然が豊かな阿武隈山地が中心
- ✓ 「観光・自然」をテーマにアイデアを創出

WESTエリア Day1



テラス石森でキックオフ



テラス石森の久保田健一さん自己紹介



葛力創造舎の下枝浩徳さんによる説明



農家民宿ZICCAで焚火体験



ホップジャパン本間誠さんによる説明



グリーンパーク都路で懇親会

WESTエリア Day2



グリーンパーク都路でキャンプ



田村森林組合の菅野孝さんによる説明



川内村の蕎麦酒房天山で昼食



かわうちワインの遠藤一美さんによる説明



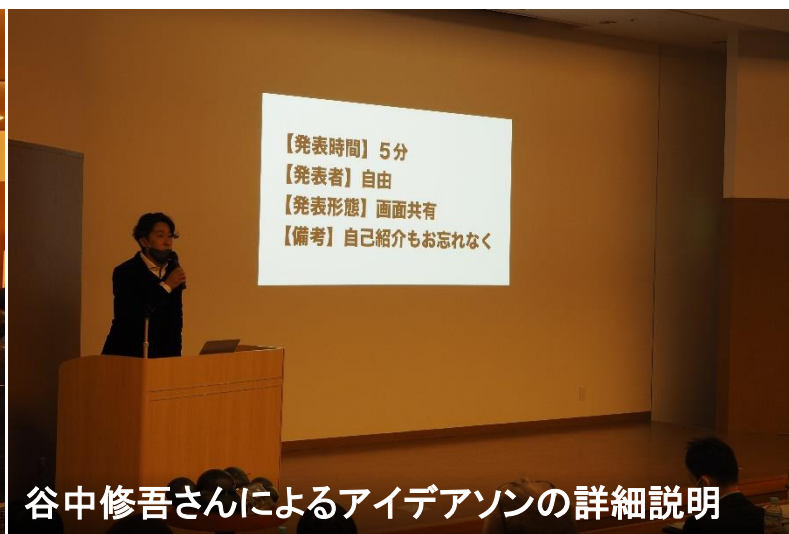
川内村のいわなの郷でディスカッション



いわなの郷で懇親会

- 
1. 本取組みの背景
 2. プログラム概要
 3. 当日の様子(フィールドワーク)
 4. 当日の様子(アイデアソン)
 5. 参加者の声

ALLエリア Day3 (前半)



ALLエリア Day3 (後半)



- 
1. 本取組みの背景
 2. プログラム概要
 3. 当日の様子(フィールドワーク)
 4. 当日の様子(アイデアソン)
 5. 参加者の声
-

「現地の起業家や経営者に刺激を受けた」

全部が素晴らしい体験でしたが、特筆するなら出会った起業家などのアツすぎる人々が魅力的でした

埼玉県の40代女性 (フリーランス)

関心のあるテーマにあわせて複数の場所の訪問、複数の方と触れる機会が持てたことが良かった。
特に小高の震災前から続く旅館に滞在できたことは記憶に残る経験になりました。

大阪府の30代女性 (起業家)

2泊3日の地域との関わりでも、こんなにも地域に対する愛が芽生えるのかと、正直びっくりした。地域活性に
この様なイベントは有効なのだと実感した。スケジュールもしっかり練られていたので間延びせずテンポ良く
脳を刺激された。

岩手県の40代女性 (起業家)

訪問先が多く、おそらく誰にでもいくつかは刺さるポイントがあった

福岡県の30代男性 (フリーランス)

小高でフィールドワークの方々以外にも旅館や魚屋さんなど地元の方々と触れ合えたことが貴重だった

福島県の30代女性 (大学勤務)

和田智行さんや、高橋大就さんなど、現地のキーパーソンの方々との交流が良い体験だった

神奈川県40代男性 (起業家)

とみおかワインは志・取り組み・課題が見えて良かったと思います。

東京都の50代男性 (起業家)

「地域の課題や可能性を体感できた」

双葉駅から大熊町に移動中の風景と、大熊町の人口300人で何もないところからのスタートがとても衝撃的で、且つ、この何も無いところからのスタートアップとして、ゼロベースで価値を生み出していくことにチャレンジしていることを知り、福島復興の原点を見れたこのイベントに感謝いたします。

千葉県の50代男性 (大企業勤務)

双葉駅前のフィールドワークが良い体感でした。行政上「戻れるようになった」土地で人が「戻っていない」という状況を肌で感じることができました。

神奈川県 of 20代男性 (起業家)

とみおかワインの高台からの景色が記憶に残っている。福島第二原発と駅前の風景を目の当たりにして、被災してから現在までの時間の移ろいを実感できた気がする。

千葉県の30代男性 (起業家)

現地のリアルな声が聞けた。改めて現地の状況を知り、情報を一次情報としてアップデートできた。

東京都の30代男性 (中小企業勤務)

震災復興地区の現状が良く分かった(地域住民と起業者・行政・復興支援団体の温度差も含め)

埼玉県の40代男性 (中小企業勤務)

それぞれの市町村の歴史や思い、特徴、震災の前後など大学の講義や普段の旅行では体験できないことを学べた点良かった。

神奈川県 of 20代男性 (学生)

「普段は出会えない参加者と濃いつながりができた」

非常に尖った仲間と知り合えて切磋琢磨できて有機的な議論ができ、またその有機的な繋がりが今後も継続出来ることになった。

東京都の30代男性 (中小企業勤務)

2日目夜その他チームとの交流会。そこで、普段では出会うことのできない方々とのつながりが大きな財産になりうると感じた。

東京都の20代男性 (大企業勤務)

参加者の所属とアイデアの多様さ、フィールドワークの自由度、交流の場の多さが素晴らしい体験だった。

神奈川県 of 20代男性 (学生)

参加者同士の交流がとれていた。これはオンラインでは非常に難しい。

大阪府の20代男性 (学生)

運営サポートの皆さん、メンターさん、視察受け入れ先の方々が非常に温かかった。12町村を通じて人とのつながりを感じられた。特に懇親会の時間が濃かった。

千葉県の30代男性 (起業家)

バーベキューを囲んでのフリートーキングが貴重な体験だった。

神奈川県 of 60代以上男性 (起業家)

初めましての方ばかりでしたが、グループで同じ体験をし、語り合い、アイディアを出し合い、それぞれの強みを活かして形にするという一連の体験がとても貴重でした。

東京都の40代女性 (大企業勤務)

「新たな視点で考える機会が得られた」

メンターの方々の的確なアドバイスにより福島復興で何が必要なのか非常に勉強になった。

東京都の40代男性 (起業家)

自分たちが考えたアイデアを、国や地域の方などに実際にやるという前提で話を聞いてもらう機会を得られた点良かった

大阪府の20代男性 (フリーランス)

3日目のアイデア出しがすごく良かったと思います。ツアーで得た知識をアウトプットするような感じでした。

神奈川県 of 10代女性 (学生)

最終日のチームワークが最も良い体験。手を動かす時間と、他チームの考えや体験が共有されたため

千葉県の40代男性 (起業家)

谷中さんのマーケティング理論がとても面白かったです！！！！自分のアイデアを思いのままに実現させているイノベーターとの出会いも素敵でした！

兵庫県の20代女性 (学生)

3日目の谷中先生の「思考インストール」が良かったです。自分自身、アイデアを出すのは漠然と進めていることが多かったですが、考え方や進め方、アイデアの出し方、マーケティングを動画を踏まえつつ、教えていただけたので、すごく勉強になりました。

奈良県の30代男性 (大企業勤務)

福島★復興グランプリ 開催報告レポート

本事業に関する問い合わせ先

〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1

経済産業省 大臣官房福島復興推進グループ
福島事業・なりわい再建支援室

TEL:03-3501-1356

本プログラムは、令和4年度「地域経済産業活性化対策委託費（福島相双地域における創業等の促進に向けたコミュニティの企画・運営等事業）」の一環として実施しています。